

第四段 (p195 8行目～p196 終わり)  
コンピューター

確実な (① 前提条件 ) から既に確立した (②ルール ) に従って、論理的な (③演繹 ) を積み重ねていく。

← 新しいものを生み出せない。  
(④創造 )

(④創造 ) 的な人

(⑤未知 ) のものへの好奇心  
誰も見たことのないものを創り出す

(⑥創造の (⑥醍醐味 ) )  
(例) ライト兄弟 (⑦飛行機 ) を発明

「創造」とは

それがなかった状態

← ジャンプ・・・めくるめくような (⑧未来 ) 感覚

それが出現した状態  
(⑤未知 ) の世界 (↑何が待っているかわからない)

問題

問1 本文は「創造」の醍醐味に触れ、それを支える感覚を説明している。

(① ) (⑧ ) に本文中から適当な語句を抜き出して答えよ。

問2 「演繹」(p195 10行目)の読みと意味を確認し、対義語である「帰納」の読みと意味も調べよ。(キーワード p101参照)

「演繹」(読み えんえき )

(意味) 一般的法則から個別の結論を導き出すこと。

「帰納」(読み きのう )

(意味) 具体的な事例から一般的法則を導き出すこと。

問3 「醍醐味」(p195 15行目)の読みと意味を確認しなさい。

「醍醐味」(読み だいごみ )

(意味) 物事の本当の面白さ 最高の味わい

問4 「ライト兄弟」(p196 1行目)はどういうことか例として挙がっているか。

誰も見たことのないもの、今まで出現したことのないものを創り出すこと。

問5 「めくるめくような「未来感覚」とは、具体的にはどのような感覚か。

まだ見ぬ未来に対して、不安と期待が入り交じった、めまいをおこすような感覚

問6 この文章全体を通じて、筆者はどういうことを読者に訴えようとしているか。

不確実な状況下でも、感情に支えられた直観で判断し、行動を起こすことで、創造につながる、めくるめく感覚を体験してほしい。